

## 神戸市一般廃棄物処理基本計画改定に係る第3回専門部会

## 議事録

## 【開催概要】

日時	平成27年5月25日（月）10時～12時00分
場所	神戸市環境局研修会館

○委員変更の紹介（玉田委員から高尾委員に変更）、高尾委員挨拶

○異動による事務局メンバー変更の紹介、挨拶

## 【議事（1）次期計画の方向性・重点施策テーマ検討について】

○事務局 （資料説明）資料1

○中野部会長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明につきまして、何かご意見・ご質問がございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。では、ただいまの事務局からの提案のように、今見ていただいている「重点施策テーマ(案)」と書いてあるところですが、「(1)家庭系ごみ関連施策」、「(2)事業系ごみ関連施策」、「(3)処理システム関連施策」という、3分類から8項目で、内容も多岐にわたるために、二回に分けて検討していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

## 【議事（2）次期計画重点施策の検討について】

○中野部会長 それでは早速、本日の議題「(2)次期計画重点施策の検討」に入りたいと思います。資料2次期計画重点施策の検討について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 （資料説明）資料2、資料2-2

（1）家庭系ごみ関連施策 ○2R（リデュース・リユース）の推進の説明

○中野部会長 はい、ありがとうございます。まず、ただいまの説明につきまして、ご質問がありましたら、よろしくお願いいたします。

○花田委員 ありがとうございます。よくわかりました。資料2の2ページなのですが、神戸市のこれまでの取り組みで「ワケトンエコショップ制度」というのをみていただいております。その中で157店舗の認定をしていますとご報告がありました。この認定を受けた店舗というのは、店舗で何か良いことはありますでしょうか。それを教えていただきたいと思います。

○中野部会長 認定を受けたことによるメリットが、何か知らされていますでしょうか。

○事務局 そうですね。具体的には伺ってないですけども。コープさんに。

○寺下委員 今となっては、コープで認定はいただいているけども、それに対するメリットはなかなか感じにくいものがあります。このような認定制度はかなり以前からありますので、他のスーパーさんも認定され、同じような取り組みがいろいろされているのではないのでしょうか。そのためコープ側からすると、更に突っ込んだ内容をやって特徴をだすことが大事なのかなと思っています。

○花田委員 ありがとうございます。コープさんが申し訳なさそうにおっしゃったんです

が、ちょうど今のようなご意見をお聞きしたかったところです。これをやることによって店舗にもメリットがあるとか、あるいはもうちょっと深ほりといいますか、施策としてどういうことを考えていくかというのが専門部会だと思いました。すみません。

○寺下委員

コープこうべは組合員組織ですので、リサイクルに取り組み、それを組合員にPRして参加者を増やすことも、コープとしての取り組みとなりますし、そのようなPRする機会もあります。神戸市の施策がなくても、そのようなことをするのが、組織的な特徴です。そのため、むしろ一般のスーパーで認証された後にどういった効果があったかということ調べてもらおうと、ワケトンショップ認定の効果が分かりやすいと思います。

○中野部会長

ありがとうございました。制度によつてのメリットはなかなか難しいですね。コープさんは、その点でいうと位置づけが少し違うので、コープさんの意見も参考にしながら、更に突っ込んで何をやるかということを考えることも重要と思います。もし質問がなければですね。

○寺下委員

すみません、細かいところの確認ですが、4番目の課題解決に向けた参考事例の「食べきり協力店」とか、「イベントでのマイボトル運動」ですけれども、①～⑨のところは家庭ごみの関係というところであるが、食べきり協力店のことは事業系の一般廃棄物を減らす取り組み、イベントマイボトルの運動はイベント実施側の廃棄物と思うのです。ここでの議論は、どこのごみを減らすというのではなく、一般市民が取り組めるものを議論するのか、家庭から出てくるごみの量を減らすことに直結するもので議論するのかだけ、お聞かせ願えたらと思ひまして。

○中野部会長

この食べきり協力店などは、直接的には事業者の対策ということになるのですが、食べきり協力店は私が提案させていただいたのですが、この趣旨はですね市民のライフスタイルに影響を与えるという意味では、食べるという行為が直接的に現れる。事業系廃棄物の中で生ごみは、店舗などが小規模であることから、店舗などの対策だけでは限度があるので、生ごみを減らすために市民のライフスタイルの変化、影響を与えるということと、小規模な事業者さんのみでは対策が難しいということをあわせて推進するという意味で、食べきり協力店のお店のほうにも協力いただいて、それに市民も協力する形で、ライフスタイルのやりかたそのものに直接影響を与えるという趣旨です。

○寺下委員

はい

○中野部会長

ということで、皆様に優先順位のつけていただいた結果、先ほどご説明いただきましたように、順位がつけられているわけですが。皆様にその優先順位をつけていただくアンケートをあらかじめ行いました結果の、ポイント意見を記述式で書いていただいたところから、共通して書いてあった箇所がある。「誰でもできること」、「やりやすさ」、「わかりやすさ」、「市民の意識を高めること」このあたりが記述式のご意見の中のキーワードだった気がする。それで、この2Rの推進について委員の皆様が具体的施策案の順位付けにおいて、考慮された事項や、普段から2Rについて活動されていること、他に取り組むべきご提案を含めて、この2Rの推進につきまして、更にご意見をいただきたいのですが、その前に欠席委員のご意見を願ひします。

- 事務局 失礼いたします。ご欠席されている委員の方、お二方に事前に評価いただいた際に、コメントをいただいております。こちらをご紹介します。黒坂委員につきましては、「順位をつける際に、優先順位は甲乙つけがたく思いました。家庭内の意識を高めることも非常に重要と考えるが、目に見える削減を考える際に重要な順番を考えて順位をつけました」というところがございます。「目に見える効果をポイントにつけました」ということです。一方、鳥越委員につきましては、「市民の意識を高めることが必要ではないか。意識を高めた上で各自が具体的にできること、取り組みやすいことをやっていったらよいのではないか」といったご意見でございます。
- 中野部会長 ありがとうございます。皆様いかがでしょうか。2Rの推進につきまして。
- 花田委員 1つよろしいでしょうか。アンケートの結果だけここにでていますが、それぞれの委員の方は、私も含めてコメントさせていただいたと思います。委員の方のコメントの集計が空欄になっているのですが、各委員の方のどういう視点があったかということを一覧にして見せていただくと、とてもいろんなことを考えられると思うのです。それはいかがでしょうか。
- 中野部会長 まとめていらっしゃるとは思うが、なぜここにはないのでしょうか。
- 事務局 そうですね。まとめているがすみません。資料に反映させていただいていない。申し訳ございません。事務局の方でご紹介させていただきますでしょうか。
- 中野部会長 かなりボリュームがあるので、次回の時にコメント入りの資料を出していただくということで、よろしいでしょうか。次回にコメント入りの資料を。ご意見いただきたいので、話のきっかけとして順位をつけていただいて意外だと思ったのが、小島委員の順位で、「減らそう生活」の優先順位が第7位と低かったのが意外だったのですが、2Rの推進の中で燃えるごみ減らそう生活の順位が低いのは活動の中で困難があるということなののでしょうか。
- 小島委員 これは、はかりを持って実感してもらわないといけないので、はかりのない人は難しいですから、155万人の人のうち900人しかもっていないので、みんなするのは難しいかなと思って。
- 中野部会長 取り組みの困難さからですね。
- 小島委員 そうですね。
- 中野部会長 他にそのような、2Rの推進で特定の用具がないとできないみたいなのは難しいのではないかというご意見。他にいかがでしょうか。例えば、また再びで申し訳ないのですが、事業者のお立場から。市民と事業者が協力して、例えば優先順位が一番高い簡易包装の推進は、単に市民が簡易包装のものを積極的に選びましょうといったって、事業者がそれに積極的に取り組んでくださらないことには、市民が簡易包装の物を選ぶといったって限界があると思うが、事業者の立場からそのへんはどうでしょうか。
- 寺下委員 はい。先生のおっしゃるとおりのことかと思えます。簡易包装のものがなくて、買えませんので、それで選択肢が必要かなというところがあります。私のところの優先順位は4番目という形にしているのですが、減らすというところを私自身はの中で上位にあげたのですが、簡易包装については、当然消費者の方もそういうものを欲しいと思っていただいて、かつ事業者側もできるだけそういった

ものを提供することが大事かなと思っています。ただ、実際にやろうと思うと、当然、商品の品質の問題などもあるので、どの程度できるかは、別の課題が多々あるのは確かです。しかし、コープのほうでも見えないところで簡易包装にしている商品もあり、きっちり消費者の方にお伝えして、分かっていたいで購入していただくことも大事だと思っています。

○中野部会長

ありがとうございます。何か他にございますか。

○高尾委員

私は、主婦として、ここに書かれてあることはわりかししてきました。神戸市がする前に台所の水切りもさせていただいて、皆さんと一緒に台所でネットをぎゅっとしぼるんですよ。しぼってさらにそれを天日に干すと、そこまでご意見を出していただいてやったことがある。そういったことは、その時はできる。何年かすると忘れてしまう。再々そうした啓発活動をどうしていくか、定期的に。地域の中でも。例えば婦人会自治会などを、通じてやると、また思い出してやらないといけないと思うが、やらないと忘れてしまうんですよ。簡易包装かって、普段皆さんね、私もよくコープにいきます。コープは組合制ですので、組合意識があって、すごく分別されていますよね。最近見ると、買った物をその場でラップだけはずして、ごみをどンドンその下に捨てている。そのごみはあの後どうなるのかと、私時々思うのですけども。また洗って向こうにやられるのか知らないですよ。そうしている市民もいるんですよ。それより、家に帰ってからきちんと分別するほうが良いのになど、思っているのですけども、それ以外にも簡易包装では、徹底して業者も包装しませんというところがあります。コープの近くでも、段ボールがそこらへんに置いてあって、勝手に使ってください、マイバッグ使ってくださいという。また、業務スーパーなんかではボンボンくれるんですよ。黙っていたら。要りませんと言わないと何枚でも出てくる。そんなところではちぐはぐがあって、それは業者側の問題ですけども。主婦としては常に啓発活動をしていないと忘れてしまう。その啓発をどのようにしていくかが徹底して。それが課題だと思う。いつも、地域は受け入れてくれないので。

○中野部会長

ありがとうございます。ほんとに重要なご意見ですね。そのときは一生懸命するが、すぐに流れてしまうというか。やはり、お店で選ぶってそこに置いている。ごみが移動しているというか、場所が変わっているだけなので、そこも考えないといけないですね。そこで置いていく人多いですよね。レジのところ。

○花田委員

その点に関しては、消費者が販売店に対する一種の意見表明かと思っています。だから、それをすることによってお店がこういった包装は要らないんだと、そして基本的にお店は廃棄物として、処理料金を払って、それを引き取ってもらわないといけないと思うので、再利用してもらったらいんですけども、そうするとそれは、みんなが置いていくなら、そういう売り方はやめようと思うきっかけになるかもしれないと思うので、まったく無駄ではないと感じているところはあります。消費者の意見表明って点で。

○中野部会長

そうですね。意思表示ですね

○寺下委員

意思表示だと思いますが、正直困っております。ごみ箱に入れられたトレイを、私ども洗ってという作業はできないので、ごみとして処分しています。むしろ私たちが困っているのは、生鮮の肉とか魚を外してタッパに入れて持って帰られます

と、我々のご自宅までのお持ち帰られるまでの品質も考えて容器を使っていますので、容器を外した事で何か問題が起こった場合に、一体どうなるんだろうと。正直申し上げて、できればやはりお持ち帰りいただきたい。ご自宅でたくさんごみが出ますよということです、店舗ではトレイなど回収しリサイクルの取り組みをしていますということです。

○中野部会長 品質管理上は、意思表示方法はあまり推進できないということですね。レジで、あけて二人で分けている方もいらっしゃいますよね。責任問題とかどうなるかと思う。衛生上あまり関心しないということあるけど、無駄な包装はやめてほしいという意思表示提案もあるということである。いかがでしょうか。減らそうショッピングでの経験とかはございますか。

○小島委員 ごみじゃぱんの小島です。「減らそうショッピング」は、2006年からずっとやっていますし、コープさんにも多大なるご協力をいただきまして、高尾さんの方にも随分、ご協力いただいてやっておりませんが、消費者の意見としては簡易包装にしてほしいというのは、おおむね賛成いただいておりますので、あとはメーカーさんがどうパッケージのデザインをするかということまでできています。市民の皆さんが自由に物を買えるように、ごみじゃぱんでは、メーカーの方への働きかけを一生懸命しているところなんです。容器包装でいいますと、一番成功した事例が「い・ろ・は・す」といわれておりまして。「い・ろ・は・す」は、コカ・コーラのデザイン担当に聞きますと、非常にかさ張ってペットボトルは困るという話があったところから、なんとかできないのか。潰せるようなペットボトルは作れないのか、ということから開発された商品で、爆発的に売れまして、今それが結局業界をひっぱる形になって、ペットボトルの分野では、十分重量が減ってきています。特に水については減っています。こうした成功事例を増やしていったらいいですね、なるべく容器が少ないような商品を選ぶような仕組みづくりを国と共に連携しながらやっていきたいというのが、ごみじゃぱんの今の取り組みなのですが、あまり関係ないから言ってもしょうがないかなと思っていたのですが。

○中野部会長 「い・ろ・は・す」は、直接ということではないが、時期的にちょうど一致しているということです。

○小島委員 私たちは容器包装のランキングを作って、それを消費者に啓発をして買ってもらうような形。消費者の投票みたいなものですが、それを推進していこうと思っているんなスーパーさんにご協力いただいて、マークをつけたりしていたのだけでも、スーパーも人員的に厳しいということもありますので、なるべく商品自体にマークがついてあれば消費者はそれをみて購入できますので、そうした商品を増やそうという取り組みをやっています。

○中野部会長 ちょうど、メーカーへの働きかけという点で、消費者とメーカーの間を、消費者の意見とメーカーにうまく取り入れていただく有効的な対策というところですね。時間の関係もございますが、他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

○奈良山委員 私は家内が今、体が悪いもので、買い物などをやらせていただいている。消費者として、コープさんに行って買っています。この簡易包装、市の方から言われて、順位付けという話だったので、その中でどういう風につけたらよいかと考えたときに、やりやすいことを考えんことには、我々するという事には、はかりの話もで

ましたけども、多くの消費者がいるのに、一部の人がしか持っていない、はかりはどうしても難しいので、私としてはやりやすいことからやらせていただく。その中で、スーパーで買わしていただいているが、消費者の立場からすればコープさんが売っておられる商品であれば間違いがないという感覚を持っているので、メーカーさんが組合さんに物を並べられる時に、非常に販売を考えて、非常に重層な包装が全く必要じゃないなということもありまして、今の話でましたけども、消費者から言えばマーケットのほうで、品質の良いものをきちんと並べていただければ、特に包装にお金をかける必要性は全くないと思っている。そういう目から見まして、レジ袋をやめられるということについては大賛成で、私はどこかで買ってきたものの袋を持って行って持ち帰っておりますので、特別に不自由に感じることはない。こういうことを考えますと商店街のほうが、専門店はやっと物を売ることと、物を売する場合でも、さうとう包装に気をつけないと販売は難しい。コープの場合はさうでしょうけども、普通の商店については包装ということはあまり販売のあれにならないという風に。私は実際、毎日コープさんで買わしていただいているので、実感としてはそういうことでございます。

○中野部会長 はい、ありがとうございます。ほんとに、やりやすさは大事ですよ。それだけに時間をかけられない方が多いですよ。お仕事とか介護とか。忙しいのであまり特定なこととか、時間がかかることは無理なので、品質に影響がない限り売るほうでできるだけ。

○奈良山委員 きちんとした商品を提供していただければ、十分だと思いますので、特に私は、包装が良いから商品を買うわけではないので、そのへんは、ご尽力してよい商品を置いていただければよいということです。

○中野部会長 では、次にいかせていただいてよろしいでしょうか。では次の検討テーマにつきまして、よろしくをお願いします。

○事務局 (資料説明) 資料2、資料2-2

(1) 家庭系ごみ関連施策 ○情報提供・啓発の推進、リサイクルの徹底(ルール啓発・制度周知、容プラ、古紙、小型家電など)の説明

○中野部会長 はい、ありがとうございます。では、情報提供、啓発の推進、リサイクルの徹底につきまして、ご質問がありましたらお願いします。なければ、このことにつきましてご意見をいただきたいのですが、先ほどのご説明のとおり優先順位で一番高かったのは、雑がみの分別ルール周知が一番優先順位でトップにきました、このことと情報提供ということもありますので、是非神戸市にお住まいの方に積極的にご発言いただきたいと思うのですが、雑がみにつきまして、藤原先生がリサイクルできないものをいうべきだとおっしゃっていたのですが。

○藤原副部会長 そういふほうがよいと思います。紙業者の方もほとんどの紙はリサイクルできるんだという風におっしゃってますし、一部銀紙がついていたり、プラスチックが一緒になったようなものは、外さないといけないので、そういうものをしっかりと知ってもらうことがよいと思います。最近、紙かプラスチックか非常にわかりにくくなっているので、紙かプラスチックはマークで書いてあるので、見て適切に捨てましょうというところを、周知させる必要があるのではないか。書いてあることは、知っていてもなかなか実践しない。わからなければ捨ててしまうということで、そ

こはきちんと啓発していただきたい。

○中野部会長

はい、ありがとうございます。排出マークそのへんからの啓発も含めて、リサイクルできないもののほうを、啓発したらどうかということです。他に雑がみ以外にも情報提供、啓発、リサイクルの徹底に関することでしたら、何でも結構ですので、よろしくをお願いします。

○小島委員

普段から、若年世代と付き合っていて興味関心等を聞いていまして、若年世代が環境の意識が低くなるのかっていうことを、先日国立環境研究所の小島英子さんとお話したのですが、ライフイベント等含めまして10代までは環境教育に触れる機会が多いですので、また、家庭生活のパターンも、お母さん、お父さんが家にいる子たちが多いですから、分別等はできていたり、意識はそれなりに持続されるのですけれども、興味・関心が多方面に広がる時期になる18歳から24、25歳、30歳手前までは、関心があった子たちも違うほうにいつてしまって、さらに教育自体が減りますので、若年世代の意識が低いというよりかは、他によそに気持ちがいつているのだらうなというのが、見て取れます。生活も大きく変化しているときですので、それが実態なのかと思っています。それをどう解決するかですけども、私が最近ヒントにしないといけないなと思っているのが、オランダのスキポール空港で、男子トイレが非常に汚くてですね、清掃代が非常にかさんでいたことがあったんですけども、男子トイレの便器の中にハエの絵を少し書いたことによって、清掃代が半分以下に減ったという事例があるんです。つまりそれは、デザインでうまく解決している事例なんですね。そんなにコストをかけずにやっている事例があって、学生たちについても、そういう形でうまく解決できないのかなというのを最近思ってますし、このアプリの開発は非常にいいなと思っているのが、今どの学生に聞いても99%以上の子がスマートフォンを持って、何かにつけてコミュニケーションしていますので、出口と入り口その両方スマートフォンと、出口のほうは、共同住宅の推進ですとか、大学への何か働きかけによって、情報を彼らに提供し、さらにそれをどう実践するかはアプリを見たらできるよというやり方によって、かなり改善されるのではないのかなということを思っています。先月、ポイント等のインセンティブが若年世代に良いじゃないかといわれていたんですけども、実感としては、中国の方の話聞いてたんですけども、発展途上の海外の方でもポイントやお金のインセンティブではあんまり分別をがんばってやったりしないという結果がありまして、相当良いインセンティブのポイント、上等なものをあげるとかっていうポイントにならない限り、そんなに大きな費用対効果がうまれないのかなと思いますので、なんとかアプリとかそういった、いろんな入り口と出口の線引きによって、若年世代についてはクリアしていく方向が良いと思うので、私も次の部会までもう少し良い案が出せるようにがんばってみますけども、そういったコミュニケーションを考えるのが良いのではないかと思います。以上です。

○中野部会長

ありがとうございます。ちょっと違った角度からのご意見だったと思うのですが、減らすとか分別ではなくて、デザインによって新しい切り口でアピールするか、大学生とかみんなスマートフォンですものね、スマートフォンを通して、今までのインセンティブという考え方ではない何か、効率的なアプリの活用も考えたらどうかということですね。デザインで解決するのは面白いですね。今の若者は、反

応するところが、ちょっと違いますものね。

○小島委員

神戸はデザイン都市なので、それでうまいこと例をだせば、市の政策ともよくあうのかなと思って。

○中野部会長

他にいかがでしょうか。新しい住民に対する情報提供とかで。

○後藤委員

私の地域は、特に昔からの下町で、昔は若い人に居てもらおうと思って、大正時代の建物を、私、まちづくりの責任者とで、住宅を市で買っていただいたんですけども、その住宅の昔からの建て替えるということはなかなか抵抗があったんですけども、行政と一緒に話した中で、若い人に何とか残ってもらおうと思って、住宅建てたんですよ。でも、若い人出て行ってしまうんですよ。そしたら高齢者ばかり残ってしまったんですよ。やっぱり分別でも家庭ごみのときに衣服なども中にいれて出しております。ほんと、出したらあれになると思うんですけども、運ぶのが大変なようで、家庭ごみに持って行ってしまう。最近、兵庫区に障がい者の施設があるんですが、そこの方が、車二台で回ってきて、2階などの置いている物を持って行ってくれる。こちらは、それが廃品回収になっていまして、昔は業者が計って、お金をすぐにくれていたが、今はみな無料で頼んで持って帰ってもらうようになって、市の方でその何%をもらうのですけども。昔は1回で1万円以上あった時もあった。そういうので、消火噴霧の機械も1台も2台も購入できたが、それが駄目になって、無料になってそうすると、外国の方の持ち去りがあって、最近徹夜で。昼間は女性が監視して、夜は男が監視していたが、歳でそういうこともできませんし、最近、廃品でも何千円なってしまったんですけども。また、高齢者ですから、運ぶ行動ができない。家庭ごみなどみましても、衣服などが入ってるんです。廃品がいいなと思うのですけども、どうしてもごみのほうが勝ってしまって、なんぼやかましく言うても。昔の人が少なくなり、新しい人が入ってきましたら、自治会の組織にも参加しない人が増えてきた。そしたらこちら、回覧をまわしても通じない。なんとかそれを今がんばってやっていきたいと思うけども、なかなか徹底できないのが悩みの種なんです。恐れ入ります。

○中野部会長

ありがとうございます。特に下町で高齢化がすすんでいて、まずは運ぶのが大変だということで、ひとは障がい者の方の収入にもなるような運ぶ方法があるということと、海外の方が取っていかれたりするので管理が大変だということと、新しい方になかなかルールが通じないということですね。

○後藤委員

ほんと昔ですけども、値段がよいときですね。こちらが監視していまして、中の袋をみましたら、他の業者の名刺なんかがあって、業者に電話していたもんですよ。私のところは、みんなそこにお金を払ってますと、調べたら燃えるごみの神戸市のところチェックしてましたら、会社からお金を取って、無料でほっているのを摘発したことがある。

がんばっているんですけども、高齢化しましたから、その力がなくなりまして、残念なんですけども。

○中野部会長

そうですね、高齢化につきましては、次のテーマでもありまして、混じってきてしまうのですが、先ほどおっしゃっていた持ち去りのことについていかがですか。ある程度聞いてらっしゃいますか。簡単にちょっとご説明いただいて。

○事務局

持ち去りに関しましては、昨年10月から条例のほうに持ち去りを禁止するとい



うことでしておりますけども、その対策として、神戸市としましては、民間の警備で朝の5時から10時、ごみを捨てる日のパトロールなどをしておりまして、そういった持ち去りをされる方がいらっしゃいましたら、神戸市のそういった条例があって、罰則があるという様なことを、啓発指導をしているといった状況でございます。昨年7月からその警備をやっておりますけども、7月から9月の時期の数からすると、10月以降かなり減っているという状況で、条例を制定させていただいた効果については上がっているという状況でございます。

○中野部会長      ありがとうございます。勝手に持っていかれてそれで収入を得ているという、それについては、昨年の10月から対策をされているということですね。そうしましたら、あと高齢化対応というテーマがあるんですが、今の情報提供、リサイクルの徹底と高齢化対応をご意見出てきていますので、また一緒にご意見いただいたらよいかと思いますが、高齢化対応について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局           (資料説明) 資料2、資料2-2

(1) 家庭系ごみ関連施策 ○高齢化対応(ごみ出し支援)の説明

○中野部会長      ありがとうございました。では、ただいまのテーマ、高齢化対応ですね。具体的には、ごみ出し支援の充実、高齢者に配慮した情報提供につきまして、こうしたらいいのになという風な、ご提案などがございましたら、同時にご質問も。

○奈良山委員      そのことやなしに、前の問題のことで。情報提供に対する共同住宅入居者へのルール推進のところ、議論がなかったと思うのですが、私は中央区の方で自治会をしておるのですが、中央区はマンションがものすごく増えまして、自治会だけのごみの収集というのは、なかなかうまくいかない事態に突入しているわけなんですけども。その中で共同住宅所有者へのルールの開発については是非すすめてもらいたいと思っている。そこで何が問題かという、各マンションに住んでおられる方に直接いうよりも、管理会社が問題と思っているわけです。ところが神戸市中央区のマンションの管理会社の半分以上が大阪の管理会社で、よけいに神戸市さんが言われてもなかなか管理会社のほうが積極的なところもあるが、そうでないところがあるのではないか。そういうことですので、今現在、住民の80%くらいの方が住まれているので、行政の問題が解決できないかと思うので、是非、共同住宅所有者、入居者への推進についてはもっと具体的なことを考えていただけたらよいと思います。以上です。

○中野部会長      ありがとうございます。貴重なご意見。本当にそうですね。住民に呼びかけるよりも先に管理者。管理会社にもっとルールを周知していただいたほうが、より具体的ですね。

○奈良山委員      そうですね、割り方マンションの管理会社ということは、自治会の者がワンワン言うていくと仕方がないなという対応をするので、いろいろ住んでいるマンションの方のごみ出しについて、積極的に協力しようという姿は見られない。ところが、マンションを建設したときは、建設基準に基づいていわゆるごみ出しルールや場所は、非常に厳しくそれは守りますと建築が行われた。実際、年月が経つと忘れてしまって管理会社の方が、全然関心を持たない管理会社が増えているように思いますので、神戸市さんが新しい対策として是非考えていただきたいと思っております。

○中野部会長 そうですね。非常に具体的なご意見ありがとうございます。他に、前のテーマも交えまして、高齢化対応についてご意見お願いします。

○藤原副部会長 今のお話で前回の議題ですが、外から神戸市に入ってくる人たちに対して、どのように教育するかということですけど。まず、住民票を届けに行くわけですよね。そこが、市との最初の接点だと思いますので、住民票を登録されにきた時に、自動車の免許の書き換えと同じように、そこできちんと教育をする。本当はできるならば、どこか部屋に入れて神戸市はこれを厳しくやっているから、これを守らないと神戸市の住民になれませんよとくらいの、きちんとしたごみの出し方とか、リサイクルに対する教育をする。そこまですると行き過ぎかもしれない。しかし、最初の時に教えることが非常に大事だと、後から入ってきて全然わからない地域に来るのですから、神戸市はこういう風にやっているのだから、そのルールを従ってください。そこでの教育は非常に効果があるという風に思います。

○中野部会長 ありがとうございます。非常に具体的な、最初が肝心ということと、住民票を届けに来た時というタイミングということなんですけども、ご検討いただきたいと思います。他にいかがでしょうか。高齢化とか、情報提供について。高尾委員何かご提案などございましたら。

○高尾委員 あんまりありませんけども。やはり地域というのはコミュニティの差ですごく違ってくるんですよね。自治会活動が非常に活発で、ちっちゃなところでもコミュニティがしっかりしているとそういうことは徹底してるんです。私たちの地域でも、ごみカレンダーは毎年作っております。新しく変わってこられた方にはカレンダー等、ワケトンブックなどを持ってきちんと伝えるようにしているが、それでもなかなか神戸のごみというのは、一番いったら悪いですけども、汚いです。ごみ以外なら持ってかえるけども、ごみは持って帰らないと。それは損なことですので、やはりこまめにしないとできない。搬出指導と書いてあるけども、環境局の方と朝7時から地域に立って、ものすごく具体的でわかりやすいんです。容器包装プラスチック、他のごみのこれは違います。これは燃えるごみです。燃えないごみです。分別して奥さんこれは違いますよ。「そうか〜わかった」と、わかりやすいんですけども、そういうことは地域の中でも何箇所もできないですよ。1回いったらそこだけとか、でも、それを細かくこまめにする、そういうこまめさがなければごみのことははっきりできません。そんなええかげんなことを言って、あーやこーやいうてもできません。それくらい大変なことと地域の中では思っております。

○中野部会長 ありがとうございます。地域の中で細かくこまめに継続的にできるように。

○高尾委員 それはやっぱり、行政と協力しないとできないことなんですよ。

○中野部会長 ありがとうございます。先ほどご意見いただいた高齢化対策ですね、何かさらにご提案というかこうしてほしいなということがありましたら、何か。

○後藤委員 ただ、家庭ごみをほり（捨て）ますね。うちは36あるんですよね。中には、ごみを捨てる場所を変えてくださいというところが、出てくるんです。自治会としては、タッチしたいけど、隣人同士で話して決めてほしいと言うてるので、隣人同士ならあきらめてそのまま、自治会ですとそこまでタッチするとあれですから。ほるとこ20所帯が1箇所にほる。そこで変えてほしい。高齢者のところはできるだけ応援してやってくれという風にして。今のところ、さきほど言いましたように障が

い者施設が、マンションの住居などにも取りにいてしてくれておるので、収入は減りましたが、助かると思うのでやっている。

○中野部会長

何か新しい制度とかというよりも、近所で助けあうとかですね。そのような活動を支援するような後押しするような、制度じゃないけども、活動みたいな方向性を出せばよいと思うのですが。例えば、挨拶運動とか一過性のあるようなキャッチフレーズってあるんですけども、高齢者のごみ出しに対する支援に関する何かこう活動にきっかけになるようなキャッチフレーズとか言葉はないでしょうか。これ行政計画なので、何か専門部会の中で、みんなでなんか感じがわかったというのではなくて、政策になるような言葉がないと前に進まないんですけども、近所同士の助け合いとか、そのようなことのきっかけになるような言葉って何か思いつかれたらご提案いただきたいと思うのですが。

○小島委員

これアイデアで面白いものがあつたので、ご紹介させていただきたいんですけども、高齢化対策で水俣市では、中学生に高齢者のお宅を訪問してごみを出しているということがあって、環境教育と福祉教育とマッチングさせたような、ちょっと刺激が強いなと思ったんですけども、そういったことをやっています。部活までやめさせて行けということやしているらしくて、親御さんから苦情が来たかというという、全然ないらしくて、そういう意味ではうまいこと機能しているらしいんで、ちょっとこれもひとつありかなとありました。もうひとつ、カラス対策って必要ですよ。あまり入ってこないですけども、先日神戸市の市民の方からいわれまして、専門部会で委員してますといたらこれ言うといってくれといってたんですけども、カラス対策でなんとかならんかということがありまして、これも別のどこのエリアか忘れましたが、言われたのが、このステーションは何時くらいに収集にきますということ、バス停の時刻表みたいなものをステーションにかけられないかということ、これをひとつご提案としていただいたので、ご紹介レベルで申し訳ないのですが、この二つをご紹介していただきました。

○中野部会長

ありがとうございます。高齢者対策としては、水俣市の例のように中学生の教育を得るといふ仕組みを作ったらどうか。福祉課と関係すると思うが、ひとつの検討の方向性だと。部活やめてまでは難しいかもしれませんが。カラス対策として、バスの時刻表のように収集時刻表というのをわかるようにごみステーションにかけていただくと、カラス対策になるのではないかというご提案ですね。

では、他にいかがでしょうか。時間があと5分くらいしかないのですが。

○藤原副部会長

地域の福祉をまずベースに考えて、そのあと取れないごみは市が取るといふのが私はよいと思う。この時の地域福祉のごみ出しですけどね、これのサポートとして、ごみ出しするときは、片手のごみを持っていくと。もう片手は、高齢者のお家の前においてあるごみを持って行ってあげる。両手なら助けられないが、ステーションに行くまでに、高齢者のお家から出ているごみを片手でひとつ持って行ってあげるくらいの気持ちで、まずはその地域の福祉のことをベースに高齢者対策をくみ上げてはどうかというのが提案です。

○中野部会長

非常に美しい。なんと名づけたら良いのでしょうか。片手運動みたいな。いいですね。神戸市ですごく象徴的な運動になる。誰でもできますものね。やろうと思ったら。片手は自分のごみ。片手は高齢者のごみを出してあげるような。それをうま

いことキャッチフレーズにして、やってみるとよいと思います。では、ちょっと時間がきましたので、このへんにさせていただきたいと思うのですが、委員の皆様からいただきました貴重なご意見を元に具体的施策をまとめていただきたいと思います。次回は家庭系ごみ関連の経済的誘導策について、事業系ごみ関連施策、処理システム関連施策について検討していきたいと思います。それでは本日の議事をこれで終了したいと思います

○寺下委員

1点だけすみません。いちばん最初のご質問をいただいた神戸市さんの施策のエコショップの件ですが、言い忘れておりました。エコショップの認定の制度はコープとしてありがたいなと思っている点は、レジ袋削減のような市民の方にややこしいな、マイナスやなと思われるような環境の取り組みをする場合に、コープだけではなく、神戸市からも賛同していただいている、社会的な運動なんだよということを言えるのは、ワケトンショップのような制度は非常によく思っておりますので、すみませんがフォローさせていただきます。

○中野部会長

ありがとうございます。ということで、事務局から連絡事項等ありましたら、お願いいたします。

○事務局

本日は、熱心にご審議いただきありがとうございます。また、次回の専門部会 6月 29 日同じこの場所で予定させていただいておりますので、よろしくお願ひします。また、今日時間が限られておりましたので、議事に関すること言い忘れたということ含めまして、お手元に事務局連絡票というのがありますので、こちらのほうでまたご提出いただいたらありがたく思います。それでは、以上をもちまして第 3 回の専門部会を閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。

以上)